

『神様、仏様、鍍絵様、いま少しお待ちください』

幡手修二

「いつかやってみたくてたのび、これじゃない？」
入ってたよ。」

と妻が持ってきた。それは、新聞に差し込まれた“活かそう六〇歳からのチカラ「宇佐市内の観光案内業務スタッフ受講者募集」のチラシでした。会社を定年退職して早三年。毎日、殆どの時間を趣味に費やしており、丁度、生活に変化をと思案している最中でした。実は、予てより故郷に戻った時は、何か恩返しができるものがないかと考えていたこともあり、迷うことなく、宇佐市シルバー人材センターへ申込書を提出しました。そして数日後、いよいよ講習会（十月二十三日〜二十四日）の日を迎えました。受講者は、院内・安心院・宇佐地域より、六〇代前半から七〇代後半の男女九名。皆さん若いな！服装もナイスセンス。まだバリバリやん！これは負けられへんな。が私の第一印象です。今回のテーマは、「宇佐神宮」「四日市の街並み」「安心院の鍍絵」の3スポット観光案内業務です。受講内容は、歴史や伝統を熟知した観光事務局や既に活躍している案内クラブの先輩講師より、丁寧な座学から現地案内まで二日間に行われました。こうした中で、市内には胸をはって誇れる歴史的な史跡が数多くあるのですが、知らなかった史実にはあらためて愕然。その一方で、伝統文化を継承する若い力が着実に育まれている新鮮さも実感することができました。宇佐市は、年間約四〇〇万人（近年は外国からの来訪者が増）の観光客が訪れると聞きます。これから私達受講者に課せられた役割は、来市されるお客様に、魅力をたくさん知ってもらい、ご家族やお友達などにも伝え、より多くの方に来ていただく、その発信者になることです。とは言いつつ、難題が待ち構えています。それは私だけかもしれませんが、ご案内する内容や情報を確実に覚え、しっかり伝えることです。当面は、講師の皆様にも、引き続きご協力いただきながら、「いざ出陣！」となった時にガッツポーズが出る様、これから頑張る気持ちで一杯です。



南中楼門の前で
講師と一緒に

鍍絵に込められた思い
に馳せる



宇佐海軍掩体壕
エンジン調整室



市指定史跡の
鍍絵を説明する
安心院おもてなしガイドの会
上鶴養正氏



九州御坊伝説を説明する
宇佐市観光ガイド末 雅太氏